

経済学科

2012

整理番号 No	科目名 Course Name	学期 Term	配当年次・単位 Student Year(s)・Credit(s)	担当教員 Professor
213	経済学演習 (近藤康之)	通年	3年以上：4単位	近藤 康之 政政・経演・国演

副題
Subtitle

応用計量経済学

授業概要
Course Description

複雑な経済現象のメカニズムをシステムとして把握し、データに基づいて具体的に分析するのが計量経済学の役割です。この演習では、分析に用いる統計的手法についての研究（計量経済学理論）よりも、実際にデータを用いた分析（応用計量経済分析）を重点テーマとします。

分析を行うためには分析方法についての理解が必要です。様々な分析方法の中でも、産業連関分析と回帰分析を学びます。産業連関分析は、多くの産業のあいだの投入・産出を通じた相互依存関係を考慮した波及効果の分析に適した方法です。製品・サービスのサプライチェーンを遡及して分析するための方法とも言えます。例えば「万博の経済効果は〇〇円」「乗用車1台のライフサイクルで排出される二酸化炭素排出量は〇〇kg」といった評価に用いられます。回帰分析は、経済変数間の因果関係を想定した統計的分析手法です。例えば「自治体指定ごみ袋の価格が1枚40円から100円へと上昇すると、ごみ排出量は1日あたり〇〇kg減少する」といった評価に用いられます。

学んだ方法をデータに適用して分析すること、およびレポート執筆と口頭発表を通してソフトウェア使用とプレゼンテーションの技術を向上することも重視します。

授業の到達目標
Objectives

計量経済分析（産業連関分析と回帰分析）の基礎的方法を理解し、それを実際にデータに適用して分析を行えるようになること。また、分析結果をレポートおよび口頭により発表する技術を向上すること。

授業計画
Course Schedule

第1回－第2回：産業連関分析の概要
第3回－第4回：回帰分析の概要
第5回－第6回：産業連関分析の実際（1）
第7回－第8回：産業連関分析の実際（2）
第9回－第10回：回帰分析の実際（1）
第11回－第12回：回帰分析の実際（2）
第13回－第14回：発展的な産業連関分析の方法
第15回－第16回：発展的な回帰分析の方法
第17回－第18回：産業連関分析の実際（3）
第19回－第20回：産業連関分析の実際（4）
第21回－第22回：回帰分析の実際（3）
第23回－第24回：回帰分析の実際（4）
第25回－第26回：期末レポート執筆の準備（1）
第27回－第28回：期末レポート執筆の準備（2）
第29回：期末レポートの概要報告
第30回：理解度の確認

教科書
Textbook(s)

未定。後日決定します。

参考：平成21年度以前に使用した教科書

- ・山本 拓『計量経済学』新世社、1995年
- ・中村慎一郎『Excelで学ぶ産業連関分析』エコノミスト社、2000年

参考文献
Reference Book(s)

学期の途中で随時指示します。

評価方法 Evaluation	割合 (%) Percent (%)	評価基準 Description
試験 Examination(s)	%	
レポート Report(s)	50 %	
平常点評価 Class Participation	50 %	
その他 Other	%	

備 考 Note	以下の講義を3年次に必ず登録・履修してください：計量経済学 α ・ β 、担当教員による経済学研究。
-------------	---

関連URL URLs for References	http://www.f.waseda.jp/ykondo/ja/
------------------------------	---